

(報告事項)

第 1114 回経営委員会資料

平成 22 年 3 月 9 日

平成21年度第 9 回
視聴者のみなさまと語る会 開催報告書
(平成22年1月23日開催)

経営委員会事務局

<会合の概要>

「経営委員会による受信者意見聴取」の平成21年度の9回目は、岡山放送局で実施し、「放送」「経営など全般」の2つのテーマで、公募による34人の視聴者の皆さまからご意見を伺った。

<会合の名称>

視聴者のみなさまと語る会～NHK経営委員とともに～in岡山

<会合日時>

平成22年1月23日（土） 午後2時から午後4時まで

<出席者>

- 【経営委員】小丸成洋（委員長）
石島辰太郎（委員）
深谷紘一（委員）
- 【執行部】日向英実（専務理事）
大西典良（理事）
兼本伸樹（岡山放送局長）
- 【視聴者】 公募による視聴者34人
- 【司会】 柿沼 郭 アナウンサー

<会場>

岡山放送局 ハートプラザ

<開催項目>

以下のとおり進行した。

- 1 開会あいさつ
- 2 経営委員会による説明
協会の基本方針その他協会の運営に関する重要な事項について
- 3 意見の聴取
 - (1) NHKの放送について
 - (2) NHKの経営など全般について
- 4 閉会あいさつ

「視聴者のみなさまと語る会」終了後、制作局の山名啓雄チーフプロデューサーによる『「鶴瓶の家族に乾杯」制作秘話』と題した講演会を開催した。

<概要・反響・評価>

- 公募の結果、はがき・ホームページを通じて計 66 人の参加申し込みがあった。会場の収容力の範囲内であることや、できるだけ多くの視聴者の方々にご来場いただきたいということから全員に案内を送付した。その際、参加者の意見の把握と参加意思の確認のために事前アンケート調査を実施したところ、48 人から回答・返送があり、38 人が参加すると答えていた。当日は、34 人が来場・参加した。
- 会合は、「放送」と「経営など全般」の 2 つのテーマを設定し、進行した。参加者からは、ニュース番組、大河ドラマ、受信料、組織風土などについて幅広く示唆に富む意見・提言が多数寄せられた。最後に、小丸委員長は「視聴者の皆さまに今まで以上に親しみをもたれ、信頼される公共放送NHKとして使命を果たしていけるよう執行部と力をあわせ最善の努力をいたします。」と述べて会合を締めくくった。
- 全員が発言する時間がなかったため、当日も意向収集のアンケート調査を行い、参加者 33 人から回答があった。回答者は、30 歳代 4 人、40 歳代 1 人、50 歳代 3 人、60 歳代 17 人、70 歳以上 8 人で、各年齢層の参加を得た。
- 参加者の満足度については、「たいへん満足」あるいは「満足」と答えた人が 78%、「ふつう」と答えた人が 19%、「不満」と答えた人が 3%であった。

< 開催内容 >

(小丸委員長)

◆協会の基本方針・重要事項を説明

- 経営委員会の役割は、NHKの経営方針を議決することと、NHK執行部の職務の執行を監督することです。また、経営委員の中から監査委員が任命され、監査委員会は経営委員会を含む役員職務執行を監査します。このように、平成20年4月1日の放送法の改正により、経営委員会の機能・権限が一層明確化されました。
- その権限を正しく行使するために、視聴者の皆さまのご意見を直接伺う「意見聴取」を行うことも放送法に定められました。視聴者の皆さまのご意見を伺って、経営委員会の運営に生かしていきたいと思っております。
- NHKでは、平成20年10月に平成21年度から23年度の3か年経営計画を公表しました。経営計画では、「いつでも、どこでも、もっと身近にNHK」をスローガンとして、「NHKと視聴者のみなさまをつなぐ2つの経営目標」を立てました。1つ目は、NHKへの接触者率を3年後に80%にすることです。2つ目は、受信料の支払率を3年後に75%、5年後には78%まで高めることです。

経営目標の実現のために具体的な9つの経営方針を立てました。

- ・方針1 「視聴者のみなさまの信頼を高めるため組織風土改革に全力をあげます」。
- ・方針2 「日本の課題、地球規模の課題に真正面から向きあいます」。
- ・方針3 「放送・通信融合時代の新サービスで公共放送の役割を果たします」。
- ・方針4 「地域を元気にするための拠点となります」。
- ・方針5 「日本を、そしてアジアを、世界に伝えます」。
- ・方針6 「円滑な完全デジタル化に向けて重点的に取り組みます」。
- ・方針7 「構造改革を推し進め効率的な体制で受信料の価値をより大きくします」。
- ・方針8 「受信料を公平に負担していただくための取り組みを強化します」。
- ・方針9 「環境経営に着実に取り組みます」。

これら2つの経営目標、9つの経営方針を着実に遂行することで、平成24年度から受信料収入の10%を視聴者の皆さまに還元する計画です。

NHKでは、3か年経営計画をもとに各年度の事業計画を立て、実行しています。経営委員会は、これらの計画が着実に実行されているか、その進捗状況を常に検証し、執行部を監督しています。

- 平成22年度の収支予算・事業計画について
 - ・平成22年度事業収入6,786億円のうち受信料収入は6,550億円で、21年度予算に対し、60億円増を見込んでいます。事業支出は、6,847億円です。地上テレビ放送の完全デジタル化のための追加経費などの影響により、収入から支出を差し引いた事業収支差金は61億円不足の赤字予算となります。赤字分については、これまでの繰越金の一部で補てんします。地上テレビ放送の完全デジタ

- ル化に向けた設備の整備や、放送会館等の整備のための建設費は790億円です。
- ・22年度末の受信料支払率は、73.4%を目指します。
 - ・来年2011年に迫った地上テレビ放送の完全デジタル化に向けた取り組みを継続して行い、地域、防災、福祉などの問題について、視聴者のみなさまとともに考え、ともに作る番組やイベントに取り組みます。
 - ・テレビを軸としながらも、インターネットや携帯端末などへも公共放送としての確かな情報や魅力的なコンテンツをお届けします。一昨年12月にスタートしたNHKオンデマンドについても一層の充実を図ってまいります。
 - ・国際放送による情報発信を強化し、受信環境を整備して、22年度末までに世界の1億3000万世帯で受信可能となるよう取り組みを進めます。
 - ・視聴者のみなさまの声を反映し、経営改革にも取り組んでまいります。
 - ・NHKの事業支出のうち「国内放送番組の制作と送出」に事業支出全体の71.3%を充てています
- 22年度は3か年経営計画の2年目として、計画を達成するための取り組みを確実に進める大変重要な年です。経営委員会としても執行部とともにそれぞれの役割を全力で果たしていきたいと考えています。

《視聴者の皆さまからのご意見とNHK側からの回答》

第1のテーマ：NHKの放送について

【会場参加者】

NHKの大相撲放送についてです。かつて八百長相撲について法廷論争がありました。また、殺人容疑や薬物使用容疑、形式美の無視など礼儀作法を踏みにじるようなことも問題とされましたが、NHKでは特に問題にすることなく大相撲の放送を行っていました。例えば、ルール違反があったボクシングの試合を放送した民放は、国民から総バッシングを受けました。大相撲は、この比ではなく天皇賜杯、内閣総理大臣杯、NHK杯まで出しています。場所中止の判断は相撲協会の問題ですが、放送中止は検討されるべきではなかったでしょうか。そのことが日本相撲協会の公序良俗・順法精神を促すことになったはずですが。

もうひとつ、NHKは視聴率をどのようにとらえているのでしょうか。NHKは民放とは異なり受信契約者がスポンサーのはずですが、視聴率をとろうと芸能人やタレントに多額な出演料を払い、下にも置かないような扱いをしていることは何か間違っているような気がします。

【会場参加者】

どのニュースをどれだけの時間放送するのは、どういう基準で選ばれているのか

教えてください。例えば、外国のニュースと国内のニュースがあります。国内のニュースといっても政治の問題、社会問題、スポーツの話題などいろいろあります。それぞれをどういうふうに放送するかは非常に影響力が大きく重要な問題だと思います。

もうひとつドラマについてお聞きします。例えば、今放送している『龍馬伝』についても歴史的な事実と作者の創作部分とがあると思います。しかしNHKで放送するドラマは、ほとんどが事実なのではないかと受け取られる恐れがあると思います。実際はどのように放送されているのでしょうか。

【会場参加者】

NHKは、公正中立に放送していると言われていますが、昨年夏の総選挙の報道では、新聞や民放と同様にNHKも民主党と自民党を中心にした報道で、少数政党の取り上げ方が少なかったように思います。『日曜討論』では、比較的公平に扱っているような気がします。実際どうなのでしょう。

また先ほどドラマの話題がありましたが、昨年12月に始まった『坂の上の雲』は、史実に忠実に描いてほしいと思います。例えば、1895年の朝鮮王妃殺害事件についてドラマではまったく触れていません。ドラマとはいえ、まったくのフィクションではないのですから、史実に忠実に描くのが公正中立なドラマ作りではないかと思えます。

(小丸委員長)

経営委員会は、放送法によって個別の番組の編集には立ち入ることができません。放送番組の編集責任は執行部にあり、内部の考査室や外部有識者による番組審議会などでチェックをしています。ただし、番組に特に大きな問題があるなどの場合は、経営委員会も指摘していかなくてはならないと思っています。

(日向専務理事)

大相撲については、相撲協会との契約により中継放送権を得て放送しており、プロ野球やそのほかのスポーツ中継とまったく同じです。相撲協会に明らかに構造的な大きな問題がある場合は、放送中止も考えなくてはならないと思いますが、そうではない段階では難しいと思います。

NHKは1週間に600本近くの番組を放送しています。総合テレビの夜のゴールデンタイムには、民放の番組よりも視聴率が高いものもありますが、そのほかの番組は1%前後のものが大半です。このように、NHKは視聴者の皆さまのさまざまな関心事にきめ細かくお応えするというを基本としており、決して視聴率を基準に番組を制作してはいません。

芸能人やタレントの出演者については、NHKは民放と比べると安い出演料で出演していただいています。逆にそのことが問題にされることもあり、出演者の方にご理解いただいて出演をお願いしています。

どのニュースを選択するかについては、具体的に細かく基準が決められているわけではありません。今、視聴者の皆さまがどういうことを知りたいのか、また今何を聞いていただきたいのかなど、いくつかの観点から総合的に判断して選んでいます。

大河ドラマについては、確かに歴史上の資料には載っていない人物が出てくるなど、いくつかフィクションの部分があります。ただ、ご指摘のように歴史を大河ドラマで学ぶ方もたくさんおられますので、史実との案配にいつも悩みながら制作しているというのが本音です。

『坂の上の雲』では、幕末から明治にかけてさまざまなことが起きており全部を網羅することはなかなか難しいのですが、ある程度は史実に忠実にしなくてはならないと思っています。また、原作が作られてからすでに長い時間がたっているので、その間に新しく見つかった資料や事実についてもなるべく取り込もうと思っています。さらに、ドラマの前後の解説のコーナーでは、例えば、ご指摘の朝鮮王妃の暗殺事件などにも触れています。『坂の上の雲』の場合は、歴史学の専門家などさまざまな方々で構成する諮問委員会で、総合的に判断していただきながら脚本を作っています。

昨年夏の総選挙の報道については、やはり最大の関心は政権交代がなされるかということでしたので、自民党と民主党のすう勢にある程度比重が置かれたことは致し方ないと思います。しかし、少数政党の主張をお伝えすることも大切ですので、なるべくさまざまな意見を取り入れるようにしていきたいと思っています。

【会場参加者】

毎朝、通勤中の自動車などでラジオを聴いていますが、岡山では中国地方のローカル放送が流れています。そのなかで関東や関西・中京圏の放送に比べて防災についてのキャンペーン放送が少ないのではないかと思います。防災放送については、しつこいと思われるぐらいに繰り返し毎日決まった時間に放送してもらいたいと思います。

もうひとつは、アナウンサーについてのお願いです。画面の切り替えのときに目線がちらっと下に向くことがあります。画面が替わるまでは真正面を見続けてほしいと思います。

【会場参加者】

『NHKスペシャル』などが好きでよく見えています。番組の最後に参考文献や関連書籍などが紹介され、今も読んだりしています。ところが最近では、あまり参考文献などが紹介されないのですが、何か理由があるのでしょうか。

もうひとつは言葉の問題ですが、コンテンツだとかコンプライアンスのようにカタカナ言葉を多用されますが、どうにかならないのでしょうか。

また各都道府県の放送局でその土地の文化遺産を特集するということは考えられないでしょうか。例えば、3年ほど前から岡山検定というのが始まり、たくさんの文化遺産が紹介されています。その中から紹介するだけでもたくさんあると思います。

最後に深夜の機器点検で『ラジオ深夜便』が中止になることがありますが、この前録音しておいたらちょうど点検の日で雑音しか録音されていませんでした。夕方18時台の地域放送で機器点検があることを知らせてほしかったです。

【会場参加者】

理事会の議事録を読んで非常に興味を持ったことがあります。現在NHKの接触者

率は76.8%ですが、そのうち10歳代から40歳代へのアプローチが必要な状況は変わっていません。最近、電車の中でよく見かけるのは、若い方が活字離れして新聞や本をまったく読まず、携帯プレイヤーなどを黙って無言のまま聴いている姿です。50歳代から70歳以上の方は、接触者率も非常に高いのですが、今後10歳代から40歳代へNHKはどのようなアプローチをするのが非常に興味があります。今後NHKでは若い方に向けてどういったアプローチをしていくのかをお聞かせください。

(小丸委員長)

経営方針のひとつに「地域を元気にするための拠点となります」という方針がありますが、もっと地域から情報発信をしてほしいというご意見をいただきました。昨年の夏には岡山北部の美作のほうで竜巻がありました。あの時は岡山放送局も必死になってニュースを報じたと思います。

それからNHKの将来を考えるとたいへん重要なことですが、「どうしたら子どもたちをNHK離れさせないか」という問題についてもご意見をいただきました。イギリスのBBCのグレッグ・ダイク前会長は、子どもたちのBBC離れを防ぐために教育放送の充実に力をいれました。同様の考えから、NHKも将来を担う子どもたちの役に立つ教育番組を充実させてきています。

(兼本局長)

防災の放送に関しては、ご指摘のとおり何度も繰り返し放送することが大切だと思います。岡山は割合災害が少ないといわれていますが、去年は、ひょうの被害があったり、7月には美作で竜巻があり、水害もありました。岡山放送局では、現地にすぐに中継車を出して全局体制で対応し、被災者の方々の様子も含めて放送しました。また私が10年前に岡山に勤務していたときにも、津山や当時の佐伯町とか岡山市の北部の一部で河川があふれたことがありました。台風10号が通過して鳥取のほうに去ったあと一気に河川があふれ、津山市では1,000棟ぐらい浸水しました。

10年に一度の災害といわれますが、災害は忘れたころにやってきます。その意味でも常に警戒を怠ってはいけないと思います。岡山放送局では水害の時期には、災害に関して問題点を指摘するような企画を立てたり、中国地方各局とシリーズで特集を組んだりして注意喚起を行っています。

(石島委員)

防災関係の情報というのは、災害が起こったあとの情報も重要ですが、起こる前の情報も非常に重要だと思いますので、NHK全体として充実させていくべきだと思います。

さきほどの若い世代の接触者率についてですが、最近は学生も非常に生活が忙しくて、いろいろなことに時間を割くのが難しいところがありますが、自分が参加したいものに関しては非常に熱心です。そこで、NHKでは最近大学のなかにスタジオを作って学生に活動してもらおうという試みを始めており、私はこうした動きを高く評価しています。また、例えば山の風景などのNHKが撮りためている映像素材を子どもた

ちが自分たちで番組を作れるように提供することも始めています。これはすばらしい成果をあげており、こうした地道な活動によって10歳代から40歳代ぐらいの若い方々にNHKへの親近感をもっていただくことも、NHKの信頼を獲得していくひとつの方法だと考えています。

(日向専務理事)

60歳以上の方には、NHKをたいへんよくご覧いただいているので、若い人向けの番組をどうしていくかは非常に悩ましい問題です。今NHKをよくご覧いただいている方々へのサービスを低下させるわけにはいかないので、両方のバランスを見ながら検討しているところです。例えば、携帯やインターネットからNHKにアクセスをしてくる方の大半は30歳代以下の方です。そこで、若い人向けのアプローチの方法のひとつとして、携帯やインターネットを通じてNHKの番組やNHKが提供している情報に接してもらい、それをきっかけにテレビやラジオに触れていただきたいと思っています。また参加型の番組を増やしていくことも考えなくてはならないと思っています。

それから『NHKスペシャル』などでなぜ本が出版されていないものがあるのかというご指摘については、NHKが直接出版を手がけているわけではないので、出版社から出版をしたいという申し出がないとなかなか難しいという問題があります。

カタカナ言葉については、例えば、メタボリックシンドロームはメタボというような言い方をします。それではあの言葉を日本語で何とさえいいたいか難しいところです。テレビという単語も、もともとテレビジョンという英語です。ご指摘のコンプライアンスという言葉も順法と言うべきだというご意見もありますが、コンプライアンスは順法と完全に同義ではありません。そのあたりが非常に悩ましいところですが、言い換えられるものは言い換えるように努力していこうと思っています。

それから文化遺産についてNHKでは『新日本風土記』という番組で、全国各地に残されている文化遺産、美術、芸術、いろいろな歴史上の人物、それから自然などを3年ぐらいかけて体系的に撮りため始めています。そしてそれを各局のローカル放送や全国放送で紹介していくとともに、ホームページそのほかを通じて皆さんが自由に接することができるようにしたいと考えています。

『ラジオ深夜便』の放送休止についてですが、各地域でラジオ第1放送を一斉に休止することのないよう、各局で計画を立てて保守点検をしています。その周知はなるべくまめにやるべきだと思います。これからは気をつけたいと思います。

(兼本局長)

文化遺産については、大阪放送局と連携して木造の駅舎を紹介する番組を制作したり、JR津山駅に残っている転車台が最近非常に歴史遺産として注目されていますので、企画やニュースで取り上げたりしています。これからも折に触れて紹介していきたいと思っています。

『ラジオ深夜便』の休止については、昔と比べると深夜の休止時間は非常に少なくな

ってきていますし、できるだけ休止をしないで保守点検をするようにしたいと思っていますが、どうしても休止をしないと点検ができないところもあります。新聞のラジオ欄などには休止について掲載していますが、もう少しどういった周知ができるのか検討してみたいと思います。

(柿沼アナウンサー)

全国放送から地域放送への切り替わりとか、地域放送から全国放送への切り替わりのときのアナウンサーの目線についてご意見をいただきました。確かにカメラから目線がずれてあまりきょろきょろしていると、視聴者の方にとっては非常に不自然ですし、何か起きたのではないかと余計な不安を感じさせたりします。日ごろから注意はしているつもりですが、そうしたことがないよう指導していこうと思います。

(兼本局長)

目線の件については、実は画面が切り替わる時にじっとカメラを見つめているアナウンサーもいます。これはこれで気持ちが悪いとおっしゃる苦情もありまして、それで少し目を落とすという対応をしたこともありました。アナウンサーとしてはなかなか悩むところだと思います。

【会場参加者】

私は昭和3年生まれ81歳です。作曲家の遠藤実さんが亡くなられたときのNHKニュースで、「昭和19年に尋常小学校高等科を卒業した」と放送されましたが、これは「国民学校高等科」の間違いではないかと思います。また、旅順港閉鎖の杉野兵曹長のことを杉野上等兵曹と言われましたが、杉野兵曹長と言うべきです。

また、よくガードマンという表現を使っていますが、男女雇用機会均等法で「マン」という言葉を使わないようになっていると思います。

最後に、私は、ラジオ第1・第2放送をよく聴くのですが、『リトル・チャロ』という英会話の番組をよく聴きます。あの番組は非常に上品で品格があります。それがテレビの放送になったらお笑いの番組のような放送になっていました。もう少しまじめな内容にしてもらいたいと思います。

【会場参加者】

私も用語の使い方が間違っているのではないかと思います。私たちはNHKのアナウンサーが話されているのだからと信頼して聴いていますので、これからアナウンサーを目指している若い学生たちのお手本になるよう技術を磨いていただきたいと思います。

また、私自身30数年前の中高生の頃は、NHKはあまり好きではありませんでした。しかし、大人になるにつれてどんどん好きになってきました。特に結婚して母親になってからは、NHKの番組ならば安心して子どもに見せることができるという信頼感がありました。ですから、NHKは大丈夫かなと思ったりします。しかし、さきほど娘と話をしていたのですが、最近のNHKの番組には子どもにあまり見せたくないものもあるということでした。お笑いのタレントがたくさん出演されて首をかしげてし

まうような進行をされている番組があり、とても気になります。やはり子どもたちに安心して見せられる番組作りを心がけていただきたいなと思います。

【会場参加者】

日本語には、日本古来の美しい表現がありますので、ぜひそうした日本語を使っていただきたいと思います。アナウンサーの方でも非常に言葉が乱れてきていると思います。例えば、「あとで後悔する」とか、よく使われる「なにないを思っております」といった表現があるのですが、思うのはかまわないけれども、また別の表現があるのではないかと思うわけです。それからNHKではあまり聞いたことがありませんが、「全然おいしい」というような言葉の使い方をしますが、非常におかしいと思います。こういったことは基本だと思いますので注意していただきたいです。

(日向専務理事)

ご指摘いただいた旧軍の階級や呼称については、年代によって変わるのできちんと把握して伝えるべきだと思います。間違っている場合は、訂正するなりお断りするべきだと思いますのでこれから徹底したいと思います。

それからガードマンの件ですが、今はカメラマンはフォトグラファーと言ったりしますし、看護婦さんも看護師さんという言い方をします。ただ、ガードマンの場合は、女性がまだそんなに多くないということもあり使われているのだらうと思います。例えば、『おかあさんといっしょ』という番組についても、おかあさんだけではないというご指摘もあり、新しい番組名を考えているのですがなかなかいいものが見つからなくて『おかあさんといっしょ』という番組名を使っています。そういったご指摘は気をつけていきたいと思います。

『リトル・チャロ』については、テレビの場合はどちらかといえば、そういったおもしろい番組があるならば英語の学習を始めてみようという方に向けて放送しています。そのかわりにラジオではきちんと継続的に聴いていただく方に向けて放送し、インターネットでは双方向で学習ができるようにするなど、媒体にあわせて内容を変えているとご理解いただきたいと思います。

(柿沼アナウンサー)

言葉の使い方については、ニュースや番組、ナレーションなどは原稿があるため、多くの人間の目でチェックしてから放送していますが、生放送のフリートークの番組などでは、アナウンサーが話したそのままが放送されますので、本人が普段どんな言葉づかいをしているかがわかります。そこで後輩には、「日常がそのまま放送に出るものだから、アナウンサーは言葉を磨くこともさることながら人間を磨くことが大切だよ。」ということをよく話しています。それから、視聴者の方から番組あてにいただいたお手紙についても、日本語としてそのままだとわかりにくい内容もありますので、内容が変わらない程度に私たちが筆を入れることがあります。このように多角的に言葉をチェックしなければなりません、時には、変な表現が出るかもしれません。できるだけわかりやすく、聴きやすく、堅苦しくない魅力的な表現を追究しているつも

りですので、どうぞ長い目で見守っていただきたいと思います。

【会場参加者】

昼に放送している『スタジオパークからこんにちは』で司会をしている稲塚アナウンサーと武内アナウンサーとゲストとのトークをたいへん楽しく聴かせていただいています。また『おはよう日本』の阿部アナウンサーが番組の最後に「行ってらっしゃい、お元気で」とおっしゃるのですが、非常に感銘を受けております。ぜひお礼を言いたいと思います。

第2のテーマ：NHKの経営など全般について

【会場参加者】

組織風土改革についてお聞きします。経営委員のなかには、福山通運やデンソーの経営者の方がおられますが、日本航空も組織風土の改革ができなかったことが、結局経営破たんの原因の一端ではないかと思っています。経営方針の1番目に「組織風土の改善に取り組む」と書かれていますが、経営委員の方から見てNHKのこういった組織風土を改革しなくてはいけないのか、あるいは改革について重点的に取り組みたいというところがありましたらお聞きしたいです。

それからもうひとつ、収支予算の中の「その他の事業収入」について特に22年度は13.1%増えています。この「その他の事業収入」の簡単な内訳と今後も「その他の事業収入」を伸ばしていくつもりがあるのかということについてお聞きしたいです。

【会場参加者】

私は、経営委員会がどんなものなのかよくわかりません。何人おられて、どうやって選考をされ、主としてどういう仕事をなさっているのか教えてください。

もうひとつ、かつて衛星放送が始まったときに衛星放送は難視聴地域で地上波が映らないところのために放送することになっていたと思います。現在もそういう地域があると思いますが、地上波が映らなくて衛星放送だけが映る場合は、BS料金だけという受信料の設定はないのでしょうか。

(深谷委員)

組織風土改革で具体的に何を行っているのかというご意見についてお答えします。平成16年ごろからの一連の不祥事を契機に、経営陣も刷新し、私ども経営委員会についても見直され新しい放送法に基づいて今は活動しています。

最初に出張旅費などの経費の管理・精算の問題について取り組みました。誰のお金で公共放送が成り立っているのかという、いわゆる「公金意識」の徹底と不正を許さない諸規程の改定を行いました。続いて、報道機関としてあってはならないインサイダー取引の問題が起り、NHKではコンプライアンスの意識が低いのではないかと、という厳しいご指摘をいただいたことから、第三者委員会やコンプライアンス委員会な

ど外部の有識者のご意見もいただきながら、諸制度を改革して現在に至っています。組織上の改革としては、総合リスク管理室を新たに設置し、内部通報制度も作りました。

もうひとつは、意識改革についてです。「倫理・行動憲章」や「行動指針」を策定してそれらを全役職員に徹底させるとともに、意識を高めるためのさまざまな研修を行っています。また、会長や理事が全職場に出向いて対話活動を行ったり、若手のプロジェクトから提言を受けたりすることも行っています。このように、私ども経営委員会も含め、NHKの全組織が今組織風土改革に取り組んでいるところです。

(小丸委員長)

私は会社を経営している立場でNHKを外から見てきたわけですが、平成16年6月に経営委員に選出されました。その翌月の7月20日にまさに不祥事が発覚いたしました。それ以来、本当にたいへんな時期でした。私が経営委員を務めている間に会長が2回替わり、今は民間から選出された福地会長が就任されています。福地会長は現場を大切にされ、全国の放送局や海外の支局等も含めて回られて職員と対話をされました。そして、会長の「変える勇気と変えない勇気」という言葉のもと、NHKはずいぶんと変わりました。その意味で3か年経営計画の経営方針の最初に組織風土改革を掲げさせていただきました。皆さまの期待以上にこれからもっとNHKは変わっていくと思いますし、どうぞいろんな意見をお聞かせください。また、この「視聴者のみなさまと語る会」でのご意見も大切にしていきたいと思っています。

(大西理事)

22年度予算をご覧いただいてもわかると思いますが、NHKは、事業運営のほとんどを受信料で賄っています。「その他の収入」の増額の一番大きい理由は、現在使っていない不動産の売却益です。それから予算項目ではありませんが、雑収入として前々年度以前の受信料をこつこつと回収しています。

それから衛星放送だけの料金についてご質問がありましたが、地上波をご覧いただくことができなくて、衛星放送しか映らない地域については、特別契約として通常の実受信料よりも安く契約をさせていただいています。つまり受信規約では、「特別契約」「衛星契約」「地上契約」という3つの契約種別があるということです。

(小丸委員長)

私ども経営委員についてご質問がありました。経営委員は現在12人で構成されており、教育・文化などさまざまな分野で全国各地から選出されています。経営委員会は、NHKを監督するとともに、経営の重要事項を議決する最高意思決定機関です。

(深谷委員)

経営委員の12人の内訳は、全国8地区から選出された8人と全国区の4人です。小丸委員長は中国地区、私の場合は東海・北陸地区で、全国各地から公平に選ばれています。また産業界、文化・学術関係などのバランスにも配慮するとされています。私もその一人として役目を果たそうとしているところです。

【会場参加者】

いつもNHK出版の語学の本を利用させていただいています。さきほど日向専務理事は、NHKは直接出版物を発行しないとおっしゃっておられましたが、語学の本はどういった組織から出版されているのでしょうか。

【会場参加者】

以前、NHKの予算審議の放送を見させていただいたとき、受信料を徴収するのにどのくらいの費用がかかっているかという話がありました。当時、野党だった民主党から出た質問でした。今までは、自民党が与党の時代でしたが、政権が交代して与党となった民主党にはどう対応されていくお考えですか。

それから同じ予算審議のときに、受信料の義務化についても議論されていました。当時のNHK会長は、「ちょっと待っていただきたい」とのことでペンディングになったと思いますが、この義務化の問題はその後どうなりましたでしょうか。

それから事業収入については、受信料収入だけなのでしょうか。民間から考えれば、この部分は一般会計みたいなもので特別会計が別にあるのではないかと考えています。
(日向専務理事)

さきほどの説明が完全ではなかったのであらためて説明します。一般的な図書や書籍については、NHK自らが出版することはできないことになっていますが、テキストだけは、NHKが主体的に行ってよいとされています。売り上げについては、NHKの事業収入の中に含まれています。例えば、『プロジェクトX』の本を出版しますと印税をNHKに支払うこととなります。その印税収入は、NHKの「その他の事業収入」として入ることとなります。テキストについても同様の考え方です。

(小丸委員長)

先般議決したばかりの22年度予算は、デジタル化の追加経費が大幅に出ることなどにより、収支差金がマイナス61億円という赤字予算となっています。完全デジタル化まで残り547日となり、環境整備に膨大な予算が必要となっています。

事業収入については、基本的には受信料収入がベースとなっており、その他の収入は本当にごく小さなものです。将来的には、収入の第二の柱となるものを検討する必要があると思っています。

(大西理事)

特別会計はありません。皆さんに公表させていただいている予算の収入の大部分は、受信料収入です。

また受信料収納にかかる経費率については、ご指摘のように、国会でも質問があり、できるだけ経費をかけずに受信料を収納していくよう努力しています。この経費率について、来年度の予算では、11.4%で計画しています。つまり1,000円を集めるために110円ほど経費がかかります。これは口座振替の手数料や皆さんにお送りする請求書の郵便料金などです。

このように、できるだけ経費をかけずに公平負担の徹底を図るためにさまざまな取

り組みをしています。今4,700人の地域スタッフの方に全国で働いていただいています。一昨年10月に訪問集金を廃止して、まだお支払いをいただけていないお宅に訪問する回数を増やしたり、お支払いが少し滞っている方のところへ伺う回数を増やしたりしています。約1年がたちましたが、徐々に成果が出てきています。さらに効率的な業務運営を目指していきますので、ご理解ご支援をよろしくお願いします。

それから支払いの義務化についてお話がありましたが、放送法第32条では、受信機を設置した者はNHKと契約をしなければならない。また受信規約では、契約した者は支払わなければならないとされています。つまり受信機を設置された方は、受信料を支払うことが義務になっています。それをより明確にする意味で放送法第32条を変えたほうがよいのではないかという議論もありますが、NHKとしては繰り返しお伺いするなど、公平負担がより徹底できるよう経営努力をしていきたいと思っています。

【会場参加者】

最近の新聞に岡山県内で6件の支払督促を簡易裁判所に申し立てたと掲載されましたが、それはどういう理由でしょうか。支払拒否ですか、それとも滞納か何かでしょうか。

【会場参加者】

NHKは大好きでいつも見ているのですが、実は今私は受信料の滞納が2か月分だけあります。どのような事情かといいますと、不祥事の際に息子が怒って、もう払わなくていいと言うので支払わないでいたら、集金の方が来られたので支払うようにしました。ところが、ある時以来集金に来られなくなりました。訪問集金がなくなることはテレビでも放送されていたのでわかっていたのですが、特殊な場合を除いて、と聞いていたので、私は特殊な場合なのだと思っていました。最後に訪問集金に来られたとき、これで訪問は最後になりますと言ってくださったらよかったのですが、何も言われずそれっきり来られなくなりました。ちゃんと理解していなかった私が悪いのかもしれませんが、しばらくして電話がかかってきて受信料の支払いが滞っているからと言われ、今のいきさつを話したら、その電話の方は、「私は電話をするだけの係なので、詳しくはNHKに直接言ってください」と言われて電話を切られました。それで、滞納が2か月分残ってしまったわけです。

【会場参加者】

私は岡山市内に住んでいて、市外で農業をしておりますが、市外に向かう30分の間にラジオが聴きづらい場所があります。また新見のほうの会社に勤めているのですが、新見に行く間でもやはりラジオが入りづらいところがあります。ぜひ改善してもらいたいと思います。

もうひとつ、地方に行くとき新しい車のナビでは、この地域ではNHKラジオ第1放送はこの周波数ですと表示がでるのですが、もう1台の車にはカーナビがないので他県に行くとき周波数がわかりません。新聞でも買ってみないとその地域の周波数かわからないので、国道などによくNHKラジオの周波数などが書かれた看板があります

が、こうした看板をもう少し増やしてもいいのではないかと思います。

(大西理事)

民事の申し立てについてご説明します。現在の受信料の支払率は21年度末の見込みでは72.4%ですが、営業の一番の悩みはなかなかお会いできないことです。社会環境の変化にともなってロックマンションが増え、お隣にどなたが住まわれているのかわからないといったことも増えました。営業としては面接する努力をしていますが、なかなか難しい状況です。また丁寧に何度もご説明を申し上げてにもかかわらずお支払いいただけない方については、最後の手段として簡易裁判所を通じてお支払いをさせていただき民事督促を平成18年11月から始めさせていただきました。来年度はほぼ全国で開始していく予定です。

それから訪問集金の廃止について案内がなかったというご意見をいただきました。まことに申し訳ございません。一昨年の10月から訪問集金を廃止するというので年度当初から集金の係には、直接お手紙やお電話を差し上げたり、テレビのスポットなどを通じて、訪問集金がなくなることをご案内してきました。もっと親切丁寧に説明すべきだというご指摘ですが、さらに徹底してまいりたいと思いますので今後ともよろしく願いいたします。

(兼本局長)

ラジオは、テレビよりも広範囲に波が伝わりやすい特性がありますが、岡山県は中国山地があつたり吉備高原があつたりと非常に地形が複雑なため、場所によっては民放の中継局とNHKの中継局の位置の違いによって聞き取りやすさが違ってくると思います。技術の担当者が、どういう要因なのかなどいろいろとご相談にのることもできますので、ぜひご相談していただければと思います。

またお手元にパンフレットをお配りしていますが、岡山放送局では2006年12月から地上デジタル放送を開始しています。皆さんもよくご存じだと思いますが、一番大きな中継局は金甲山にあります。ただ金甲山の中継局だけでは県内をカバーしきれませんので、その後3年間で35の中継局を各地に建設し、県内のどの場所でも地上デジタル放送をご覧いただけるよう取り組んできました。そして、今後1年間にこれまでに作ってきた35局を上回る42の中継局を建設します。これにより現在アナログ放送をご覧いただいているのと同じくらいの地域で地上デジタル放送をお楽しみいただけるようになります。

<小丸経営委員長の全体についてのまとめ>

今日は、皆さまからNHKの番組や経営全般に対する貴重なご意見数多くいただきました。皆さまからのご意見はNHKの執行部と私ども経営委員会で共有し、今後のNHKの経営に活かしてまいりたいと思っています。

平成22年度は、3か年経営計画の2年目という重要な年です。しかし、3か年経営計画を策定した一昨年10月の時点に比べ、経済状況が悪化していることから、受信料収入は3か年経営計画で想定した水準を下回って推移しています。そのため経営委員会は、平成22年度収支予算・事業計画を議決するにあたり、経営計画で策定した収支構造の実現に向けて全力をあげて収入確保に取り組むべきことなどを経営委員会の意見として執行部に申し入れました。

経営委員会は番組の編集に立ち入ることはできませんが、正確で公平・公正な報道に努めて放送の自主・自律、不偏不党を堅持するとともに、あまねく日本全国に質の高い信頼できる放送を提供し、国民の皆さまの安全・安心のための災害緊急報道や海外に向けてわが国の情報を発信することは、公共放送NHKの重要な使命です。平成22年度の収支予算・事業計画の執行にむけて、経営委員会は執行部と協力して全力で取り組んでまいりたいと思います。

そして、視聴者の皆さまに今まで以上に親しみをもたれ、信頼される公共放送NHKとして使命を果たしていけるよう、経営委員会は執行部と力をあわせ最善の努力をいたします。本日は、どうもありがとうございました。

<終了後の経営委員の感想>

- 放送番組については、具体的かつ地域に立脚した内容のご意見が多かった。
- 地域の方々には地域を愛しておられ、それゆえ、地域のNHKへの期待も大きいことを改めて感じた。
- ラジオをたくさんの方が聴いていることがわかった。
- 山地の多い地域らしく、難視聴についてのご指摘やご要望が多かったのが印象的だった。

<当日会場アンケート集計結果>

1 性別

男性	女性	不明
16	10	7

2 年齢

	30代	40代	50代	60代	70歳以上
男性	2	0	1	9	4
女性	1	1	1	5	2
不明	1	0	1	3	2

3 今回のイベントを何でお知りになられたのか。

放送	ホームページ	人から聞いて	その他
20	8	0	6

4 今回のイベントに参加していかがでしたか。

①たいへん満足	②満足	③ふつう	④不満	⑤たいへん不満
11	14	6	1	0

5 一番印象に残ったコーナーはどこでしたか。(複数回答)

①22年度事業計画説明	②放送について	③経営等全般について	④鶴瓶の家族に乾杯
3	17	8	7

6 NHK経営委員会の仕事を知っていましたか。

①たいへんよく知っていた	②よく知っていた	③知らなかった	④その他
1	9	24	0

7 イベントに参加して、NHK経営委員会の活動について理解が深まりましたか。

①理解が深まった	②特に変わらない	③わからない	④その他
23	4	4	1

<自由記述欄>

放送、イベント等について

- ◇女性キャスターの話し方で語尾が気になるときがある。
- ◇今年のNHKに大いに期待している。よい番組をお願いしたい。
- ◇昨年大河ドラマは、史実とあまりにも異なる部分があり残念だった。駅伝の放送はよかった。
- ◇『ふるさとラジオ』は、職場で休憩時間に毎日聴いている。柿沼アナウンサーにお目にかかれて、うれしく親近感を感じた。
- ◇『かんさい土曜ホットタイム』でどうしても関西弁で放送するのであれば、全国放送ではなく関西地方だけの放送にしてほしい。
- ◇今朝テレビで鳥取のとんど祭を何か月間か記録した番組が放送されていた。身近な風習などがよくわかり、ついつい見入ってしまった。主人と「NHKはよい放送局だね」と話した。本日の会に参加して関係者の方が努力してくだっていることがさらによくわかった。
- ◇経営委員長の最後のあいさつにもあったが、経営委員会は個別番組に立ち入らないようにしてほしい。
- ◇有権者が政権交代を望み民主党が圧勝したが、48%の得票率で80%の議席を占める小選挙区制の問題点も選挙報道で解説すべきだと思う。

受信料について

- ◇受信料は100%徴収していただきたい。10%還元すべきでない。
- ◇受信料の公平負担のためには、受信料を徴収する努力と同じく何らかの視聴制限をしたらどうかと思う。デジタル放送では可能なのではないか。

経営について

- ◇特に組織風土改革に積極的に取り組んでいただきたい。
- ◇今まで経営委員会の役割などわからなかったことが少しでもわかってよかった。

語る会の運営等について

- ◇登壇者の話がたいへん参考になった。また参加者の質問も楽しいものが多く、明るく楽しい会であったように思う。
- ◇理事の方の説明がよくわかった。
- ◇皆さんのいろいろな意見が聞けてよかった。今後は番組そのものだけでなく、NHKのい

ろいろな面に目を向けていきたいと思う。

◇机が狭くて、資料が広げにくかった。

◇会に参加させていただき、経営・放送に関していろいろと勉強させていただいて感謝している。

◇参加者の皆さんはNHKの将来や現在のことを熱心に考えておられ、放送については、私の思っていることを代弁してくださった方もあった。柿沼アナウンサーもラジオ番組そのままにやさしい語り口であり、これからも活躍していただきたいと思う。

◇番組の最後に参考文献として関連書籍を紹介してほしい。

◇アトラクションの山名チーフプロデューサーのお話がとても楽しかった。